

柏木ビジョン

新宿区立
柏木小学校

2024.6.4

1年生 国語 「ねことねっこ」 楽しみながら自然と学ぶ学習活動

入学してからもうすぐ2か月が過ぎようとしている1年生が取組んでいるのは、「っ」を使った言葉を探す学習です。1年生にとっては、授業時間の45分はとてつもなく長く感じられる時間です。そんな中でも「自ら学ぼうとする力」を育てていくことは、大切なことです。担任の梶川先生は、学習の過程を「できる⇒分かる⇒楽しい」という従来型の授業ではなく、「楽しい⇒できる⇒分かる」という流れを意識した授業づくりに取り組んでいます。そのため、数々の声掛けや仕掛けに溢れた授業が展開されていました。



元気な1年生

動作を入れてリズムで「っ」を認識する

「ねこ」の間に「っ」を入れて変身させるよ。ね・こ、ポン、ポン(手拍子)。ね・っ・こ、ポン、お休み、ポン(ポンとポンの間は手を握って音の休みをつくる)」

子どもたちも真似をして、次に教科書の言葉を梶川先生が読み、子どもたちが繰り返します。その次は、子どもたちだけで音読をします。さらに先ほどの「ねことねっこ」の手拍子も入れます。かと思えば、次にボリューム1の声で、次にボリューム4の声で、励ましながら様々な課題が出てきます。子どもたちは笑顔を浮かべる子や噴き出す子までいて、実に楽しそうです。

「っ」のつく言葉を集めましょう

「今日は「っ」のつく言葉を使った文を書いてほしいので、その前に「っ」のつく言葉を集めましょう。」

「あつめ方は2つあります。①「っ」のつく言葉をノートに書きます。②「っ」が入ると変身する言葉を見つけてノートに書きます。」

と、梶川先生が子どもたちに投げかけました。

「両方書いてもいい？」

「どっちもやろう！」

子どもたちはやる気満々です。②については、「きく」と「きっく」というようにと例をあげて説明していました。



言葉さがしに熱中

梶川先生は、その他にもノートに書き出す位置をモニターに写して示したり、子どもたちにノートに書き出す位置を指ささせて、それをチェックしたりと、学習に迷いなく取り組めるように配慮しています。そのうちに、何を書くのかを迷っている子には、腰をかがめて、相談にのるように優しくアドバイスをあげていました。その子はその後に、霧が晴れたかのように、どんどんと「っ」のつく言葉を考え出していました。

「見つからない人は『はなのみち』を探してごらんなさい。いっぱい出てくるよ」

止まっていた子どもたちも一斉に教科書を開いて、見つけたのかノートに書きだしています。

「先生、まだ2つしか見つからない」

「ずごーい。もう2つも見つけたんだ。先生は1つ見つけましようと言ったのだから、2つ見つけれられるのはすごいよ」

とすかさず、称賛します。先ほど悩んでいて相談にのった子が、探せているのを見て、

「〇〇さん、変身する言葉を4つも見つけたんだね。すごい、あとでみんなに紹介してね」と、できたことをすかさず褒めることは、その子の自信につながるなと思いました。



やさしくアドバイス

言葉を紹介してください

「では、見つけた言葉をお隣に紹介してください。そうしたら、新しい言葉が見つかると思いますよ」

子どもたちはノートを見せながら、見つけた言葉を紹介します。みんな楽しそうです。することが分かって、それができていれば、自然と相手には紹介したくなるものです。子どもたちは、紹介する側もされる側も、身を乗り出して交流しています。

「それでは、自分で見つけた言葉を紹介してくれる人は、立ってください」

と梶川先生が話すと、クラスの3分の2ぐらいの子が立ちました。

「柏木しょうがっこう」「はっぱ」「がっきゅう文庫」「にっき」「いっぽんみち」「マット」「バット」「バッタ」「かっぱ」「国旗」

と続きます。「マット」の時は、「マット」の「っ」をぬくと「まと」となって変身言葉であることとか、「国旗」の意味を尋ねてみるとか、さりげなく、語彙が豊かに広がるような配慮がされています。

「では、みんなが見つけた「っ」を使った言葉を使って、文を書いてみましょう」と、例文を書いて見せたところで、チャイムが鳴りだしました。



こんなの見つけたよ

授業を終えて

子どもたちにインタビューを試みました。

「国語の授業は好きですか」

「文字が好きだから、好きです」

「文字をならったら、大人になったら役に立つので好きです」

「文字をすらすら読めるようになりたいです」

と、前向きな考えを聞きました。すごいなと感心してしまいました。

一方で、梶川先生にも聞きました。

「丁寧に指導していますね」

と言ったところ、

「1年生の国語は、週9時間ありますからね。国語の力は全教科で使います。ここでつけた力を全教科で発揮してほしいです。」

と話してくれました。まさに千里の道も一歩からだなと感じました。この先の一年生の成長がとても楽しみに感じました。